

合掌

## 人、人、人、全ては人の質にあり

道院だより、久しぶりの発行となります。2月中、パソコンが壊れていまして、修理と復旧に1ヶ月を要してしまいました。昨年の4月に買ってからもう2回目の故障なので、メーカーの修理センターだか相談センターに、ちょっと苦情の電話をしたのですが、「すみません。」の一点張り。まるでとりつく島もありません。大きな会社組織の一社員ですし、このような苦情は日常茶飯事でしょから、いちいち取り上げていたのでは対応しきれないので、マニュアル通りに対応するしか仕方がないのですが、あまりに誠意のない対応に、なんとも納得しがたい気分が残りました。しかし、逆に私が、その苦情に対応する立場にいたらどんな返答ができただろうかと考えると、ちょっと考えてしまいました。

以前こんなことがありました。デジタルビデオカメラが壊れたのです。それを買った量販店に持って行き、保証期間内だったので、メーカーに修理に出しました。すると、メーカー側から、故障の原因が、使用の方法にあり、保証対象ではないという回答がきました。スイッチ部分の不具合でしたので、何かの衝撃が原因だろうということです。ですから、機械自体の原因ではないので、保証できないということです。そこで、メーカーに電話して話を聞きました。初めはやはり「無理です。」の一点張りでした。そこで、私は、そういう衝撃を与えるようなことはしたことがないこと、貴メーカーの製品には信頼を置いており、ずっと使用していることなどを、できる限り誠意を持って伝えました。すると、電話向こうのメーカーの方も、「分かりました。今回は無償修理をさせていただきます。」という返事をしてくれました。

有名自動車メーカーが、リコール問題で揺れています。人命にかかわるアクセルやブレーキの不具合が、製造側に問題があるのか、ドライバーの感覚の問題なのか、本当に安全性に問題がないのかということが、毎日のように報道され、結局リコールに踏み切ったわけですが、この後手の対応が、生産自動車や会社自体への不信感となり、とうとうアメリカ議会の公聴会への社長じきじきの出席という事態にまでなりました。報道によると、これら不具合に関しては、ユーザーからは、もっと早い時期から寄せられていたそうですが、その報告がしかるべき所へは届いていなかったということも伝えられています。機械そのもの問題とともに、そこに携わる人間にも何か問題があったのではないのでしょうか。

○ 少林寺拳法ではその中心的な教えとして、「人、人、人、全ては人の質にあり」があります。これは、開祖「宗道臣」が、旧満州の地で敗戦を迎え、命がけで日本へ帰国する中で、組織や会社、国の在り方も、結局はそこに立つ「人」の質により、どのようにでも変わるということに気づき、この「人、人、人、全ては人の質にあり」ということを悟ったのです。そして、「半(なか)ばは人の幸せを、半ばは他人の幸せを」真剣に考え、行動できる人を一人でも多く作ることが、幸せな理想郷を作る唯一の方法であると考え、少林寺拳法を創始しました。

私たち拳士は、社会の中のさまざまな立場にいます。それぞれの組織なり、学校なり、会社の中で、どのように在るべきなのか、どのように行動するべきなのか、常に考えながら生きること、そういう自己を確立すること、これこそ、私たちが少林寺拳法を修行している目的なのです。

結手